

エゾマツ

第 9 号

発行 北海道ボランティア・
インジャー協議会

1989. 5 15

発行責任者 河村千束

夏の観察を前にして

会長 河村千束

季節はずれの流氷の接岸で、オホーツクの海は又冬にもどった格好になったが、今年には例年のない暖かきで春の訪れも早く、桜のほころびも早いようである。

札幌近郊の山々のキタコブシやエゾヤマザクラの冬芽の膨らみも例年より心もち大きく見えて4月下旬にはその美しい花を見ることかできるのではないだろうか。

キタコブシ・エゾヤマザクラ黄白色のカエデの花が咲き終わると森の植物たちは一斉に活動を始め、フデリンドウ・ミヤマスマミレ・ユキザサ・マイヅルソウ・エビネなど競うように咲きみだれ、森の観察には最も適した時期となり今から心が踊る。これらの山野草を伴ってナナカマド・ホウノキ・ミズキ・アズキナシ・ハクウンボク等森に華麗な花が咲き北国の短い夏が始まり、森の植物たちは夫々の繁栄のために思いおもいに特色ある美しい花を咲かせて森を彩り森の観察にふさわしい季節となる。その森の中でアゲハ蝶をはじめ、暖かい光を受けて誕生した蝶たちが花を求めて美しく乱舞すると森は初夏から夏へと展開していく。エゾハルゼミがにぎにぎしいコーラスを始め、クワガタ虫等の甲虫の仲間たちはミズナラの樹液を求めて活動し虫たちも夫々の生きるためのドラマを繰り広げる。更に夏が深まると森は緑り濃く、人々は森林浴を楽しむ絶好な季節となる。樹々の繁りで小鳥たちの姿を見ることは困難ではあるが、その美しい旋律は森の観察を一層楽しいものにしてくれる。

静かな湖沼ではマガモが子連れで、水面を静かに波紋をひいて泳いでいる風景は人々の心にやすらぎを与えてくれる。その湖沼の岸边にはオニヤンマが悠々と飛び、エゾイトトンボの可憐な姿を見ると夏は更に深まっていく。初夏から夏にかけて雄のキタキツネは雌を求めて遠くへ旅立ち、雌は子育てに忙しい。命短いノネズミも子育てに懸命で、シマリスも餌を求めて林道を走れば、エゾリスは枝から枝へと活発に活動する。このような動物たちの子育てと冬への体力づくりに懸命の姿を折りにふれて観察するのもまた楽しい。

黄白色のウバユリ、大型の真っ白い花をつけるオオハナウド、オニシモツケの白い群落等、森の中は白い花が目立ってくる。そしてシナノキ・オオバボダイシュ・シウリザクラなどの樹々が梢に美しい花を付けると森の夏はたけなわとなる。

蜂たちは芳しい香と蜜を求めてシナノキの梢に集まり、蝶たちも樹冠に咲花を求めて飛びかうのもこの頃である。朝早く林道を歩けば、ミミズやカタツムリが這いでてくる。それを追うようにトガリネズミやオサムシ・マイマイカブリなどの甲虫が動きだし生きるための激しい闘争を見ると改めて自然界の生存競争の厳しさを感ずる。

そして春蟬のコーラスに変わって夏蟬の声を聞きながら林道を行くと、足元から樹林へとキンミズヒキ・サラシナショウマなどの美しい花が見られ、やがて紫紅色のエゾトリカブトの花が咲き、遠くで鳴くアオバトの淋しい声が聞えてくると夏も終わりである。

このように森は多くのドラマを展開し、人々に驚異と感動と喜びを与えてくれる。そして今年もまた自然観察が更に充実するように、あれこれと模索している今日この頃である。



ボランティア・レンジャーの

活動をこのように考える

大友 健

私共の協議会の性格は、あくまでもボランティア活動に徹し、企画、運営がなされなければならぬことは、会員の皆様も十分ご承知され、各々の立場で、努力を惜しみなくされ歩みつけている現在を組織の一員として頼もしく思っております。

仲間が増え、多くの意見があるところに、ややもすると運営に当たって、支障となる要因が芽ばえ始めるのが、一般的な事例であるだけに、今一度初心にかえり、ボランティア・レンジャーの理想像なるものを考えてみたいのです。

ボランティア活動は、活動そのものを通じて自分自身も成長できるという、たいへんすばらしい人間的な行為であると定義づけできるのではないのでしょうか。

スポーツや、文化活動など、実に多くのことがボランティア活動として、取り組みがなされてきている現状を知るとき、一人でも多くの仲間が、喜んでこの活動に飛び込んでくる、いや、飛び込んでこれる人間としての気楽さが、組織となった場合に一番大切であると思うのです。

ボランティアを始める動機は、いろいろあることではしょうが、先ずは身近なところから、自分の生活の範囲内で、無理なく活動することにより、楽しさがありそして相手の人々に対しての自信ができて、その自信が更に自信を呼び、すばらしいボランティア活動となり、無限の喜びとともに、人々に多くの感動を与えることではしょう。また参加した人々に、自分の時間、能力などを無理して接したときは、満足を与えることなく終わるでししょう。

長い間、熟練されたボランティア活動を続けるためにもこのことは大切であり、そして是非まもっていかなければならないことです。

更に、ボランティア活動は一方的な率仕ではないことを一度考える必要もあります。活動はできるだけ仲間で行い相手の事を考えながら、お互いに足りない部分を補いあ

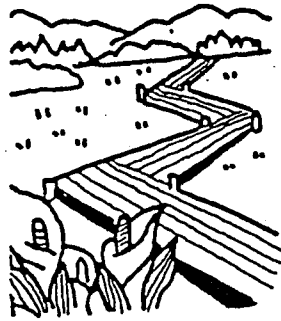
って協力していくべきではないだろうか。

そして、ボランティア活動を進めるにあたっては、やはり学習も当然必要になってきます。自分の活動の対象を知り、専門家の意見を聴いたり仲間に相談するのも当然考えられることであり、必要になってくることではないでしょうか。

活動のないボランティア・レンジャーには喜びもなく、感動ありません。

活動のなかで、多くの人々との出会いがありお互い学びあい、高め合う喜びが、ボランティア活動そのものと云えるのではないのでしょうか。

そのため、研修の機会を多く企画し、高度なものを求めることなく、仲間同志での研さんを重ね、ゆっくり、着実な歩みをしたいものです。



春のウトナイ湖・北大演習林を尋ねて

高橋 雅子

暖冬のため例年より1と月ほど早くハクチョウ・カモ類は飛び去っていったとのことで、残念ながら湖畔には数羽のコブハクチョウ・コハクチョウが見られるのみでした。オジロワシや肩の白いオオワシの休んでいる姿が点々としていましたが、飛んでいる勇姿も見なかったですね。ヒシクイはくちばしのオレンジ色や羽の白い線模様が美しく印象的、堅いヒシの実を食べるヒシクイは見たかった鳥の一つです。

その他にも、ネイチャーセンター横のバードテーブルには、シジュウカラ・アカゲラ・アトリなどが室内から、目の前でよくみえました。

(ウトナイ 17種確認)

北大演習林につきバスを降りると、すぐ散策路へ……。

顔の黄色がめだつミヤマホウジロをみつけ、今日はいい日になりそうな予感!

たくさんの餌台に鳥達がにぎやかです。オオアカゲラ・コゲラまでがすぐ目の前でのかぶりと採餌。樹下ではカシラダカの一団。なんととっても圧巻は、キレンジヤクで樹にも餌台にも群がって、やさしい声を聞かせてくれました。観測塔や資料館は一般には開放されていず、今まではなかなか見学する機会がありませんでした。剝製になった鳥は不気味でしたが、図鑑からはよくわからない実際の大きさがつかめ参考になりました。

(北大演習林 13種確認)

バードウォッチングは、5月・6月中旬位が夏鳥が渡ってきたり、若葉頃で鳥の姿もみつけやすく最適です。

ゴールドenウィークが楽しみです。

アイヌ文化を学んで

住吉光子

先頃アイヌ文化について学習する機会があり、アイヌの方々の衣・食・住が自然とどう関わっていたかを少しばかり知ることができた。主催して下さった先生方の熱意もあって、私のような浅学な者にも理解できるように、映画やスライド、貴重な財産とも思われる衣服の実物（アトッシ 樹皮衣 ・テタラベ 草皮衣 ）を手にとらせて見せて下さったりで、大変有意義なものであった。

森林公園などを歩きながら、知ったかぶりで

「オヒョウの木はアッシ織りの原料となる木で、アイヌの方々には無くってはならない木でした。」とか、

「ウバユリの根茎は、蛋白源として大切な食料でした。」とか、

「チセの材料となっているのが、ドスナラやヤチダモ・カヤなどです。」

とか説明していたものを、少しばかり肉づけしていけそうなものであった。

アイヌの人々の生活は、ずっと長い間、衣・食・住のどれをみても、そこにある自然の恩恵なしには成り立たなかった。つまり、狩猟採取なしには生きられなかったようである。これは、アイヌの人々に限ったことではないが、日本歴史の中に見る民族の生活とは、いささか異なるところが多いように思われる。

アイヌの人々は、古代より真の人間性を、自然と調和して自然に感謝して生きることに求めた。このことは、今でも残されている様々な祭りや祈りの儀式、うたやユーカラの中にも一貫して伺うことができる。つまり自然と人間の調和という信仰観の中には、乱獲や自然破壊はないのである。

自然が豊かだったから、人間の数が少なかったからと言ってしまえばそれまでである。

しかし、理念として自然に対する畏敬や感謝、謙虚さを持つ者と持たぬ者の差は大きい。

地球規模で環境破壊が進んでいるという。原発問題で、アイヌの人々とインディアンが手に手をとって反対行動を起こしたという。

もしかすると、今一番自然を愛し、人間のとるべき道を知っている者は、この人達ではないかと思うのである。



各支庁等行事計画

10日まで判明分

実施日	実施場所	内容	主催者等
6月18日	様似町アポイ岳	自然観察	国土緑化推進委員会 日高支部
6月4日	留萌市礼受	自然観察・登山	留萌市教育委員会・留萌支庁 増毛市岳会・留萌支庁
6月24日	増毛町暑寒別岳	風景観察	
7月1日	天売島	海鳥生態観察	留萌市教育委員会・留萌支庁
7月2日	幌延町パンケ沼	探鳥会	留萌市の会・留萌支庁
7月16日	増毛町暑寒別岳	高山植物観察	留萌市教育委員会・留萌支庁
7月3日	留萌市礼受	自然の観察	留萌市教育委員会・留萌支庁
9月24日	幌延町パンケ沼	紅葉の観察	留萌市教育委員会・留萌支庁
9月29日	増毛町暑寒別岳	紅葉の観察	留萌市教育委員会・留萌支庁
9月1日	留萌市礼受	自然観察	留萌市教育委員会・留萌支庁
10月5日	留萌市礼受	自然観察	留萌市教育委員会・留萌支庁
5月21日	深川市旧吉住小学校前庭	探鳥会	深川野鳥の会・深川市等
9月17日	新得町トムラウシ温泉周辺	紅葉・キノコ観察	環境庁大雪山国立公園管理 事務所・十勝支庁・新得町
7月9日	かもめ島	自然観察	江差町

滝野自然ウォッチング日程表

回	テーマ	月・日	講師	募集人員	内容
1	原 松次の植物教室 「早春の草花」	5月14日 (日)	原 松次	50人	ミズバショウ、フクジュソウなどの早春の草花を観察する。
2	春の野鳥 ウォッチング	5月21日 (日)	野生生物情報センター	50人	オオルリ、キビタキなどの野鳥の観察と春の草花を見る。
3	クイズで楽しむ 滝野自然ウォッチング	6月11日 (日)	野生生物情報センター		植物(昆虫)を中心にクイズをおりこんで楽しみながら観察する。
4	原 松次の植物教室 「初夏の植物」	7月9日 (日)	原 松次	50人	ツリフネソウ、ユクワなどの初夏の植物を観察する。
5	親子昆虫ウォッチング	7月30日 (日)	野生生物情報センター	100人	夏休みの子供を対象に蝶やクワガタを中心に昆虫を観察する。
6	星座ウォッチング	8月27日 (日)	札幌市青少年科学館	150人	初秋の星座の観察指導を行う。
7	秋の昆虫 ウォッチング	9月17日 (日)	野生生物情報センター	50人	鳴く虫を中心に秋の昆虫植物を観察する。
8	原 松次の植物教室 「紅葉・木ノ実」	10月10日 (火・祝)	原 松次	50人	紅葉・木ノ実を中心に植物を観察する。
9	冬芽・足跡 ウォッチング	3月18日 (日)	野生生物情報センター	50人	樹木の冬芽・動物の足跡野鳥を中心に冬の自然を観察する。

行事案内

○ 5月21日 (日) 野幌森林公園春の森林観察会

野幌森林公園恒例の観察会です。多くの会員の皆様のご出席を期待しております。

集合場所 野幌森林公園大沢口
時 間 9:00~14:30
持ち物 弁当 双眼鏡 図鑑等

○ 6月11日 (日) 野幌自然フォーラム

例年環境週間行事として行われていたものです。
詳細は別紙野幌自然フォーラム実施要領を御覧ください。



総 会

次の日程で第4回北海道ボランティア・レンジャー協議会総会を行います。万障お繰り合わせご出席くださいますようお願い致します。

○ 7月8日 (土) ~ 9日 (日)

日 程 7日 17:00~ 総会 懇親会
8日 定山溪ダム周辺観察会 13:00まで
費 用 5000円程度

詳細については後日連絡致します。



ボランティア保険加入のおすすめ

安心してボランティア・レンジャー活動を続ける為にも「ボランティア保険」への再加入の手続きをしてください。又未加入の方も万一の事故に備え「ボランティア保険」への加入をお勧めします。

保険の内容は別紙の通りですが、特徴加入手続きは以下のようです。

特徴

- ・ 掛金1名につき300円（加入時期に関係ありません）
- ・ 保険期間は4月1日～翌年3月31日まで（途中加入は翌日から3月31日までとなります）

加入手続き

- ・ 受付窓口は各市町村の社会福祉協議会（社協）です。原則として個人で手続きをしてください。
- ・ 加入済の方は会費納入の際通信欄等でお知らせください。
- ・ 別紙パンフレットを参照してください。

入会申し込みと会費納入について

入会は会則（5条）により、会費の納入によって入会申し込み及び継続会員として手続きがなされたものとします。随時受け付けていますので下記まで納入（申し込み）してください。会費は年額3000円です。

郵便振替口座

番号 小樽 8-21442
名称 北海道ボランティア・レンジャー協議会

現金納入その他不明な点は

〒065 札幌市東区東苗穂6条1丁目8-2 6
小竹 数 博 Tel 011-784-6251

編集後記

つい先頃、桜の花便りを聞いたばかりと聞いていたのに気がつくど道庁の前庭の桜はもうすっかり葉桜でした。

会報9号は、4月末にお届けする予定でしたが、諸般の事情で遅れましたことをお詫び致します。

の活動を知るうえでも、又励みともなるものと思います。今後も優先的に掲載していきたいと思しますので、是非皆様の地域のニュースをお寄せください。

今号掲載の、新聞切り抜きのニュースをお寄せくださいました会員の皆様ありがとうございました。このようなニュースは会員相互

5/15



新聞に見る会員の活動

釧路温泉公園保護
我々がガツチリと
ボラシテイ
講座終わる



温泉保護の問題点を具体的に話し
合った釧路温泉ボラシテイ講座

クボラシテイ活動は、昨年十一月から釧路温泉公園保護問題が興起してきました。釧路温泉国立公園ボラシテイ講座の開催が十一月二日行われた。私戦下でなほ国内各地から参加した五十九人の受講者は、これま釧路市自然史委員会から二千余りの講師から釧路の自然や歴史、ボラシテイ活動について熱心に学んだ。川原集は八河と高く接し後は自然保護教育を身につけた釧路の案内役「釧路温泉ボラシテイ」に交際され各イベントの開催や旅行者の案内などにあた

この中には道のボラシテイアレンジャー一研修会を受けられた方が9名、そして当会の会員が5名います。ご健闘を祈ります。

道新3月13日掲載
小樽の鈴木さんより

四月 三日 第11号



どるさんも交えて参加する
—7日、小樽市朝風川風景で

「緑の
「小さいながらも
をみんなの手でつ
らぶ」「北郷ま
ンジャー山草木を
いが發見し小樽市
限に近い細木林と
手による植樹が
この場での環境
れている草木の
題をめぐり
小樽市朝風川

招き寄せます
道新3月13日掲載
小樽の鈴木さんより

緑の楽園市民の手で

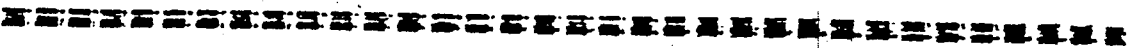
温朝 豊川 50人参加し植樹祭

なからも緑の楽園の手でつくりだす北瀬水三ツアエ川草木を育てる緑の小樹苗が山並み茶を七日馬の植樹が行われた。この祭典で植樹した苗木は、高瀬川と北瀬川に約五十人が参加

植樹祭 高瀬川をめぐり、緑の楽園を植樹した。苗木は、高瀬川の水質を改善するため、川沿いに植樹された。参加者は、高瀬川の水質を改善するため、川沿いに植樹された。参加者は、高瀬川の水質を改善するため、川沿いに植樹された。

に育つことへの期待を込めて、自分の植えた木に名前を付けてもらった。その後、高瀬川をめぐり、高瀬川の水質を改善するため、川沿いに植樹された。参加者は、高瀬川の水質を改善するため、川沿いに植樹された。

5月8日付



サンクチュアリと北大演習林を見学
高瀬水三ツアエ
シンヤール協賛会
道の研修を受けて自然観察指導員になった人たちが構成する北瀬水三ツアエ・シンヤール協賛会(向村栄会)の一員が二十六日、京小

牧のトナリ湖サンクチュアリと北大演習林を見学した。道の自然観察指導員は六十一年度から毎年五十人ずつ研修を受けて現在は百五十人、このうち同協賛会に加入しているのは約半数、月一回のべ一スで行われている自然観察会などの活動に参加して

自然に親しみ、理解を深めている。二十六日は約三十人が参加。トナリ湖は水とチャートで野鳥のすみかを見学し、野鳥の会のシンヤールの説明を受けた。トナリ湖の山の中、土質が異なる中、貴重な自然の浄化作用を学ぶことができた。北大演習林では森林資料館、森林記念館、森林観察館などを見学。資料館では森林のしくみ、自然が育んだ樹木、百年の樹木の歴史、その中で生きる動物たちについて解説し、森林資源が人間生活の中心となることについても実感した。また、森林観察館からは原野と森林の自然の景観を一瞥

にし、京小牧の多彩な景観を認識した。また、高瀬川をめぐり、高瀬川の水質を改善するため、川沿いに植樹された。参加者は、高瀬川の水質を改善するため、川沿いに植樹された。



3月27日付



北大演習林を見学するホリエア・シンヤールたち